

夏季高温年でも果皮着色に優れるリンゴ品種 「シナノホッペ」

農業総合センター山間地帯特産指導所

本県の気候は他のリンゴ主産地と比較して温暖な気象条件下にあり、高温による着色不良や果実品質の低下等が懸念されています。特に令和5年は、10月上旬から収穫の「陽光」や11月上旬から収穫の「ふじ」でも、夏季の異常高温が原因と思われる果実品質の低下が確認されました。これを受けて、本県気象条件下でも果実品質が優れるリンゴ品種として「シナノホッペ」を選定しました。

高温年でも果皮着色が安定して良い

「シナノホッペ」は長野県育成品種で、交配組合せは「あかね」×「ふじ」です。果実重は400g前後で「ふじ」よりやや大きく、形状は扁円形～扁円錐形です。

果皮は暗紅色で、令和5年の特異的な夏季高温の年においても収穫期間を通して安定して着色しました。

表1 シナノホッペの表面色

品種	表面色 (1～6)		
	R3 (17.7℃)	R4 (18.2℃)	R5 (19.0℃)
シナノ ホッペ	5.9	5.7	6.0
陽光 (対照)	5.1	5.0	3.5
ふじ (対照)	5.4	4.6	3.3



写真1 果実外観

※表面色は「ふじ」用表面色カラーチャートで判定 (1薄-6濃)。下段 () 内は所内観測による8-11月の平均気温。平年値 (直近10カ年) 17.8℃

表2 シナノホッペの果実特性

品種	糖度 (Brix%)	ミツ入り程度 (0無-4大)
シナノ ホッペ	14.8	2.4
陽光 (対照)	13.3	0.1
ふじ (対照)	14.1	1.7

※R3年-R5年の平均

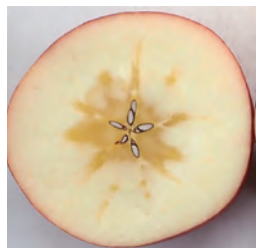


写真2 果実切断面

糖度やミツ入り程度が高く、食味良好

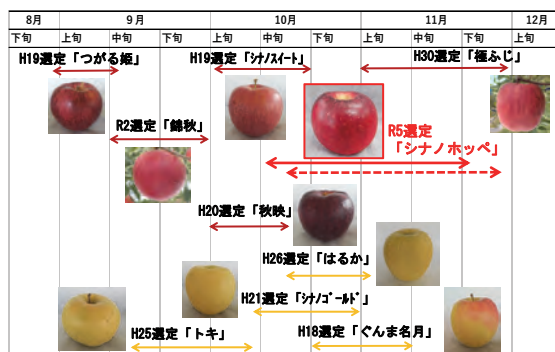
糖度やミツ入り程度は「ふじ」と同等かそれ以上と高く、食味は良好です。また、熟度が進むとミツ入り程度が向上する傾向があります。

試食アンケートでは、外観（果皮着色）のほか食感の評価が高く、導入に興味を示した生産者の割合が90%以上と高くなりました。

収穫期間は40日程度と長い

収量は主要品種と同程度ですが、高温年でも収量の低下は見られませんでした。また、収穫期間が10月中旬から11月下旬までの40日程度と、過去の選定品種と比較して長いのが特徴です。

高温の影響と思われる収量・品質の低下、収穫期間の短期化が見られる品種や、高温の影響を受けやすい園地に対し「シナノホッペ」を導入することで、温暖化に強い園地への転換が図られ、所得の安定化が期待されます。



注1) シナノホッペの実線はR5、点線はR4の収穫期を示す。
注2) 上記以外の品種の実線は選定当時の収穫期を示す。

図 当所で選定した品種の収穫期